

サーチライト With Pastor Jon 黙示録 第7章 パート2

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

黙示録 7 章。

AD70 年に、神殿もその中にあった記録も全部燃えているのに、誰がどの部族かなんて、どうして分かるのでしょうか。

主はご存知です。

創世記。

ヨセフはエジプトの総理大臣で、彼の兄弟たちは、目の前に座っているのがヨセフだとは知りませんでした。兄弟たちがヨセフに死んで欲しくて、彼を穴の中に投げ入れ、奴隷として売り飛ばした話は知っていますね。今ではヨセフは権力者ですが、兄弟たちには分かりません。

ヨセフは祝宴を開き、兄弟たち一人ひとりを年の順に、然るべき位置、然るべき順番に座らせました。

「どうして分かったのだろう。」

聖書には、彼らはとても驚いたとあります。

ヨセフよりも優れているイエス・キリストは、誰がどの部族かをはっきりとご存知で、12 部族それぞれから 12,000 人ずつ、正しい順番に並べられます。

どうしてこの話をそんなに強調するのかと言うと、皆さんには絶対に「反ユダヤ」思考に陥って欲しくないからです。

「ユダヤ人のための場所はない！」

「キリスト殺し！」

違います！！

神は、彼らイスラエル国家に膨大な計画を持っておられます。

疑う余地なく、全 12 部族が、今日のイスラエル国家を造っているのです。

もし神がユダヤ人に誠実でなければ、あなたに対しても誠実でいて下さると信じる根拠がありません。

何度も間違いを犯し、墮落したユダヤ人に対して、それでも尚、主は彼らのことを「わたしのひとみ」と呼び、「彼らに偉大な計画を立てている。」と言われます。

だから、たとえ私が間違いを犯したとしても、主は私にも誠実でいて下さると信頼することができるのです。

私たちは、ユダヤ人と共に立ち、彼らを助けるべきです。

ユダヤ人に敵対するべきではありません。

疑うなら、ローマ書 11 章をしっかりと読んで下さい。

神はユダヤ人を退けていません。(ローマ 11:1)

そして、神はあなたのことも退けていません。

聖書は、書いてある通りを意味し、その意味の通りに書いてあります。

人間が複雑に作り出した様々な論理に耳を傾ける必要はありません。

神が“イスラエル”と言えばそれは“イスラエル”を意味し、神が“ユダヤ人”と言えばそれは“ユダヤ人”を意味するのです。

それは変えようがなく、神が“教会”と言えばそれは“教会”を指しているのです。

聖書は常にシンプルに読むように。

聖書は難解なものではありません。

黙示録 7 章の大患難の時に、144,000 人が神によって聖別され、イスラエル国家に、最終的には世界中に送り出され、彼らはパワフルに伝道していきます。

「でも、あまりにも数が少ないのでは？」

今日 (1997 年当時)、何人の伝道師が世界に出ているかという、4,800 人です。

4,800 人の伝道師が、世界の前線で活動している。

これを知った時には大変驚きました。

さて、なぜ 144,000 人なのでしょう。

それは神が、患難時代のユダヤ人とイスラエルに対してだけでなく、全世界に対して何かをするためです。あなたの友人、家族、周りの人たちに驚くことが起こるのです。

その後、私は見た。見よ。あらゆる国民、部族、民族、国語のうちから、だれにも数えきれぬほどの大ぜいの群衆が、白い衣を着、しゅろの枝を手に持って、御座と小羊との前に立っていた。(黙示録 7:9)

彼らは、大声で叫んで言った。「救いは、御座にある私たちの神にあり、小羊にある。」(黙示録 7:10)

御使いたちはみな、御座と長老たちと四つの生き物との回りに立っていたが、彼らも御座の前にひれ伏し、神を拝して、(黙示録 7:11)

この 9 節の、御座の前に立ち、白い衣を着たあらゆる国民、部族、民族、国語の人々が、御使いたちをひれ伏させ、神を礼拝しほめたたえます。

御座と長老たちと四つの生き物との回りに立っていた御使いたちが、突然ひれ伏し、神の栄光と誉れをほめたたえる。

そして言った。「アーメン。賛美と栄光と知恵と感謝と誉れと力と勢いが、永遠に私たちの神にあるように。アーメン。」(黙示録 7:12)

どうして御使いたちは、彼らを見てこんなに興奮し喜んでいるのでしょうか。

何が、御使いたちや長老たちや四つの生き物を喜ばせ、大興奮させるのでしょうか。

それは、この中にいる、9節の白い衣を着た、あらゆる国民、部族、民族、国語の群集です。

彼らは誰なのか。

「御座の前に立っていた」というのは、天国でのことです。

ヨハネは天国にいて、これらのことを見ています。

長老のひとりが私に話しかけて、「白い衣を着ているこの人たちは、いったいだれですか。どこから来たのですか」と言った。(黙示録 7:13)

質問したのは、天国の長老だということ覚えておいて下さい。

ところで、長老たちのように神に使われたいと思っている人、それは、教会の長老であろうと、家庭の年長者であろうと、会社や近所の成熟した兄弟姉妹であろうと、成熟した人として伝道の働きを与えられた人のことですが、ここを見て下さい。

天国の長老たちは何をしたでしょう。

長老のひとりが私に話しかけて、「白い衣を着ているこの人たちは、いったいだれですか。どこから来たのですか」と言った。(黙示録 7:13)

しっかり書き留めて下さい。

誰も尋ねていないのに、長老の一人が話しかけました。

成熟した兄弟姉妹は、誰に質問されなくても、自分から話しかけるのです。

つまり、霊的な議論をあなたから仕掛けるのです。

仕事で、学校で、家の周りで、「主よ、私を使ってください。私に、『生きる意味って何ですか。』『死後天国に行くかどうかは、どうすれば確信できるのか』『イエス・キリストとはどのような人なのか』と質問する人を送って下さい。」

そういったことも起こり得ますが、ほとんどの場合、それが起こるには、何年も何十年も待つことになるでしょう。

天の長老たちは、人が質問してくるのを待たず、彼らの方から会話を始めました。

これが、天国の長老たちが行っていること。

恐らく皆さんは言うでしょう。

「もし、私が会社で預言や霊的な事を何か言ったら、みんなは私を敬虔で霊的な人間だと思うだろう。」

素晴らしい！パーフェクト！それでいい！

あなたのことを、「永遠の世界に全てを捧げた人」だと思わせればいい。

何も問題はありません。

「でもそんなことをしたら、変に思われるかもしれない…」

いいですか。

人の目を気にしている限り、ミニストリーの長老には絶対になれません。

と言っても、教会内での立場や肩書きの事を言っているのではなく、本当の意味での“長老”です。あなたがもし、“人を恐れて”いたり、“人への恐れ”によって動かされているとしたら、それがあなたの足を引っ張ります。

ある時点にまで来たら、「私のことを誰が何と言おうと構わない。それよりも、彼らのことが気がかりなんだ。彼らは真実を聞かなければ。天国が本当だという事を知らなければ。だから、彼らに伝えないといけない。」と言えるようにならなければなりません。

長老はヨハネの所に行って語りかけました。

「ヨハネ、この白い衣の人たちは誰か？どこから来たのか？」

そこで、私は、「主よ。あなたこそ、ご存じです」と言った。(黙示録 7:14)

ヨハネが、彼らが誰か知らなかったのだから、彼らは教会ではありません。

黙示録 4 章と 5 章で、ヨハネは教会を認識しました。

しかし、彼はこれらの人々を知らないのです。

彼らは教会ではあり得ません。

でも、「彼らは白い衣を着て、しゅろの枝を手を持って、小羊の前に立っている」と書いてありますね。そして彼らが来たことを、御使いたちが大喜びしています。

教会ではないとすれば、この集団は誰なのでしょう。

すると、彼は私にこう言った。「彼らは、大きな患難から抜け出て来た者たちで、その衣を小羊の血で洗って、白くしたのです。(黙示録 7:14)

だから彼らは神の御座の前において、聖所で昼も夜も、神に仕えているのです。

そして、御座に着いておられる方も、彼らの上に幕屋を張られるのです。(黙示録 7:15)

彼らはもはや、飢えることもなく、渇くこともなく、太陽もどんな炎熱も彼らを打つことはありません。

(黙示録 7:16)

なぜなら、御座の正面におられる小羊が、彼らの牧者となり、いのちの水の泉に導いてくださるからです。また、神は彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださるのです。」

(黙示録 7:17)

つまり彼らは誰なんだ？と思っていることでしょう。

まず注目して欲しいのは、彼らが天国に来た事を、御使いたちが大喜びしていること。

「ひとりの罪人が悔い改めるなら、神の御使いたちに喜びがわき起こるのです。」

(ルカ 15:10)

ここでは、数えきれないほどの人々がいて、御使いたちが大喜びしています。

これらの人々は迷い出ていたが、患難時代にイエスを信じた人たちで、そのために殺されたのです。

6 章の 5 つ目の封印の箇所で見ましたね。

そこでは、主を信じた人たちに対する迫害が始まりました。

どうして彼らは携挙されなかったのかというと、携挙の時点では、彼らはイエスを信じていなかったか

らです。

でも 6 章以降を読み進んでいくと、数え切れない人たちが患難時代に救われるのです。

かつて、あなたが伝道した人たちは、あなたの事を頭がおかしいと思ったでしょう。

聖書を読んだ人、バイブルスタディーで学んだ人たちは、その時はワケがわからないと思ったでしょう。

それが、携挙が起これると、あなたが伝えていたこと、彼らが聞いていたことが、閃光のように脳裏に甦ってくるのです。

そして、144,000 人のユダヤ人ビリー・グラハムの声を聞きます。

想像できますか？

伝道する 144,000 人のユダヤ人ビリー・グラハム。

更に、御使いが空を飛び (14 章)、11 章で登場するエルサレムの二人の証人、恐らくモーセとエリヤが説教します。

すると突然、彼らは、「あれは、本当だったんだ！」

彼らは主に立ち返り、主を信じるのです。

だがしかし、多くは命と引き換えになります。

6 章の 5 つの封印の箇所にかかれてるように、彼らは殺されるのです。

さらにひどいことに、13 章で反キリストが、獣の印を受けない人に対して戦いを仕掛け、迫害は更に加速していきます。

私は、非常に重要な事実を伝えるために、これらの事を言っているのです。

世界史上最大のリバイバルは、教会が携挙された後に起こります。

ペンテコステの日のことを覚えていますか。

その日、ペテロは立ち上がって言いました。

「彼らは異言で主を賛美しているのであって、酔っばらっているわけではありません。

これは、預言者ヨエルによって語られた事です。

『神は言われる。終わりの日に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。

すると、あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。

(使徒 2:16 - 17)

また、わたしは、上は天に不思議なわざを示し、下は地にしるしを示す。

それは、血と火と立ち上る煙である。

主の大いなる輝かしい日が来る前に、太陽はやみとなり、月は血に変わる。』

(使徒 2:19 - 20)

つまり大患難。

『しかし、主の名を呼ぶ者は、みな救われる。』(使徒 2:21)

いつですか？大いなる主の日、大患難の時です。

愛する皆さん、よく聞いて下さい。

近所の人や愛する人やあなたの子供たちが、今は耳を貸さなくても、あなたを見て、何か悪い物でも食べたのかと思っけていても、少々頭がおかしいとか変人だとか思っけていたとしても、その時が来れば、全てつ

じつまが合ってくる。

そしてその彼らが、主を呼び求めるのです。

「しかし、主の名を呼ぶ者は、みな救われる。」(使徒 2:21)

大患難の間、捕えられ、地獄のような耐え難い最悪の体験をしながら、歌を聞き、あなたが伝えたことを思い出し、かつて聞いたメッセージを思い起こし、そしてそれら全てが繋がるのです。

愛する皆さんに是非言いたい。

信仰に立って伝えましょう。

たとえ今は反応がなくても、御言葉を発信し続けましょう。

なぜなら、世界最大のリバイバルは、携挙の後に起こるからです。

神の約束、

「わたしの口から出るわたしのことばも、むなしく、わたしのところに帰っては来ない。

必ず、わたしの望む事を成し遂げ、わたしの言い送った事を成功させる。」

(イザヤ書 55:11)

『望む事』とは魂を救う事です。

学校の人たち、近所の人々、職場の人、あなたの家族を救う事。

だから、御言葉を伝え続けましょう。

たとえ彼らが今は受け入れなくても、その日には、「誰にも数えきれないほどの人々」が主の御名を呼び求めると、聖書にありますから。

そしてそれと引き換えに、結果として、同じだけの数えきれないほどの人々が、迫害によって死に、天国へ行くのです。

次にもう一つ見て欲しいこと。

もし携挙の時に残されても、大患難で救われたなら天国へ行けるから、それはそれで素晴らしい。

しかし、キリストの花嫁にはなれません。

これが聖書預言に関して、多くの人が知らない部分です。

天国には、異なるカテゴリーの人々がいるのです。

キリストの花嫁と、7章で書かれている、主のもとに来る大患難のしもべたちです。

彼らも天国へは行きます。

しかし、キリストの花嫁ではありません。

それから、旧約聖書時代の聖徒たち。

彼らもまた、異なるカテゴリーの人々です。

バプテスマのヨハネの話をしている時、イエスは、はっきりと言いました。

「まことに、あなたがたに告げます。女から生まれた者の中で、バプテスマのヨハネよりすぐれた人は出ませんでした。」(マタイ 11:11)

モーセもエリヤもサムエルもダビデも、女から生まれた者の中で、だれひとりとしてバプテスマのヨハネよりすぐれた人はいない。

「しかも、天の御国の一番小さい者でも、彼より偉大です。」(マタイ 11:11)

バプテスマのヨハネは旧約聖書時代の聖徒でした。

彼は、新約聖書のマタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの福音書に出て来ますが、イエス・キリストが十字架にかかる前に死にましたね。

だから、バプテスマのヨハネの話は新約聖書の初めに出て来ますが、彼は旧約聖書時代の預言者で、その中で最も偉大な人です。

ところがイエスは、「クリスチャンの中の最も小さい者でも、バプテスマのヨハネよりもすぐれている」と言ったのです。

なぜかと言うと、私たちクリスチャンは、違うカテゴリーに属するから。

私たちはキリストの花嫁です。

異なるカテゴリーについては、黙示録の終わりの方で詳しく説明するので、今回は簡単にこれだけをお話しておきます。永遠の世界に入るには、いくつかのカテゴリーがある事を知るべきです。

主と共に御座の中に座る、キリストの花嫁。

私たちは、キリストのために支配し統治する。

キリストは私たちに尽くして下さる。私たちが愛しているから。

次に、しもべたち。

彼らは大患難時代に救われた人々。

そして、旧約聖書時代の聖徒たち。

彼らはジェホバ(神)の妻。

後で見ますが、キリストの花嫁とは違うカテゴリーです。

私がこれらをお話する理由は、「その時が来たら信じるよ。」という人たちに、あなたが伝えなければならないからです。

「OK、分かりました。もし大患難の時に信じれば、あなたはそのために殺されるでしょう。そして、奴隷として天国へ行きます。」

奴隷になるには、素晴らしい場所です。

どのカテゴリーに入ったとしても、天国が素晴らしい場所であることに違いはありません。

でも！今日信じたら入れるカテゴリーに属することは出来ません。

きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにしてはならない。(ヘブル 4:7)

今は救いの日です。(第2コリント 6:2)

実際に自分の目で確かめるまで待たないで！

信仰の人となって、キリストの花嫁になりましょう！

心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。

悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるから。

柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから。

義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるから。(マタイ 5:3-6)